

「八尾、立田 全力出して」

ボートきょう敗者復活戦

東京パラリンピックのボート混合かじ付きフォア(運動機能障害PR3)予選が27日行われ、戸田中央総合病院(戸田市)に所属する八尾陽夏(24)、立田寛之(29)両選手が出場した。八尾選手はふじみ野市出身。

この種目は、比較的軽い



ボート混合かじ付きフォア予選に出場した八尾陽夏選手(手前左)(27日、海の森水上競技場で)

肢体不自由の選手と視覚障害のある選手が出場でき、こぎ手4人と舵手1人が同じボートでゴールを目指す。立田選手に障害はなく、八尾選手は小学5年の頃に患った脳梗塞こうそくの影響で、右半身にまひが残る。結果は2組で6位。中盤から後れをとった。28日の敗者復活戦で巻き返しを図る。

同病院ローイングクラブのチームメイト・坂口宥太さん(27)は2年ほど前、トレーニングマシンで練習する八尾選手の姿が印象に残っているという。右手は緩急をつけた動きが難しく、ほぼ左手だけでこぐため体力を消耗する。目の前のこととに一生懸命取り組む姿に感心していた。

試合後、坂口さんは「スタートに勢いがあり、『ついていくぞ』という強い気持ちが表示していた」と話し、「八尾の持ち味は元気と笑顔。焦らず全力を出し切ってほしい」と期待した。